

第2学年 図画工作科学習指導案

1 題材名「ふしぎな虫とゆめのたび」（絵に表す）

2 題材について

本題材は、空想の世界で遊んで浸りきり不思議なことや面白いこと、美しいものとの出会いに想像を広げ、夢をふくらませながら、自分だけの想像の世界を絵に表していくことがねらいである。子どもたちは学校の屋上から風流れる雲の様子や飛んでいく鳥や虫、校区の町並み、道の向こうに見える川やビル、観覧車や福岡タワー等日々の生活の中で体験している情景を楽しく眺めた。これは子ども達にとって新鮮な経験である。その経験を基に、「もしも超能力を持った不思議な虫に乗って自由に空を飛ぶことができたらどんなに楽しいだろう。」と語りかけていくこととした。自分だけの不思議な虫や好きなところに旅をする世界を想像し絵に表していくことは、子どもたちの表現意欲を喚起し夢をふくらませながら表現に没頭することだろう。さらに、生活科の生き物大好き「虫さんとなかよし」国語科「お話づくり」の学習と関連させることで、より一層感性を働かせることができると考えた。お話の主人公である自分や虫、大きさ、物と物との関係等を自分の思いに合わせて面白さ美しさを追求することで発想や構想する力を伸ばすことができると考えられる。また、パスやはり絵等既習の表現方法から工夫して表すことを通して創造的な技能を伸ばしつくり出す喜びを味わうことができる好題材である。

3 題材のねらい

- 自分の想像した不思議な虫に乗って、空想する世界に旅をすることを想像し、進んで絵に表そうとしている。
(造形への関心・意欲・態度)
- 自分で想像した不思議な虫に乗って旅をする様子を自由に発想し、画面の組み立てを工夫することができる。
(発想や構想の能力)
- 自分の表したいことが表れるように虫や周りの様子をパスやコラージュ等で工夫して表すことができる。
(創造的な技能)
- 自分や友だちの作品の話を楽しく見たり、形、色、表し方の面白さに気付いたりできる。
(鑑賞の能力)

4 題材計画（8時間）

配時	2（2/8時 ○組）	5（3/8時 ○組, 5/8時 ○組）	1（8/8時 ○組）
ねらい	学校の屋上から眺めた風景から自由に空を飛べる不思議な虫の様子（頭、羽、足、動き等）を想像し図工ノートに言葉で書き、それをラフスケッチにかいて構想することができるようにする。	自分の想像した不思議な虫や行ってみたい世界について、想像を深めながら、パスやコラージュ等の既習の表現方法から自分に合う方法を考え、工夫して表すことができるようにする。	自分の思いに合うように作品を見直して仕上げ、自分の想像した虫や回りの様子を表すのに工夫したことを発表し、友だちの作品を楽しく見ることができるようにする。
活動	であい	表現	鑑賞
学習活動の内容	<p>1 自分が乗ってみたい不思議な虫を想像して言葉で図工ノートに書き、それをラフスケッチに表して構想する。</p> <p>(1) 屋上からの様子を眺め、超能力を持った不思議な虫に乗って空を飛ぶことを想像し、自分の乗ってみたい虫を思い付く。</p> <p>(2) 不思議な虫や自分の形を想像して線描する。</p> <p>共通事項イ</p>	<p>2 自分が一番表したいことははっきりと分かるように自分や虫の位置や動き、まわりの様子、風景を工夫して表す。</p> <p>(1) 一番知らせたいことが伝わるように切り取った虫や自分の絵を画用紙上で操作し、周りの様子を工夫してかく。</p> <p>(2) 自分の思いに近づくようにパスやフェルトペン、紙類を貼る等工夫して表す。</p> <p>共通事項イ</p>	<p>3 自分や友だちの作品について、表したかった思いや面白さや楽しさを話したり聞いたりする。</p> <p>(1) 自分が一番絵にかいて表したかったことや工夫を発表する。</p> <p>(2) 自分や友だちの作品を小グループで交流する。</p> <p>共通事項ア</p>

第2学年〇組 図画工作科学習指導案(であいの活動)

指導者 〇〇 〇〇 2年〇組教室

5 本時目標 (2/8)

- 自分が考えた不思議な虫や自分の様子を想像して簡単な線で表し、自分の表したいことに近付くように考え、表すことができる。(発想や構想の能力)

6 本時学習のポイント

想像した虫や自分が虫に乗っている様子を交流したり動作化したりすることで、虫の形や動き体の様子のイメージを具体的に持つようにします。そして、想像した不思議な虫を自由に何枚でもスケッチをします。この時、子ども同士が表現を自然に語り合うことができるように少人数のグループで活動するようにします。

7 展開

学習活動	支援	子どもの姿
1 前時までの学習を振り返り本時学習のめあてを確認する。	☆ 前時の学習を図工ノートや資料で提示する。	△ 図工ノートや資料から自分が想像した不思議な虫や自分の様子を思い出している。
 <p>図工ノートを読んで自分が想像した虫や自分の様子、どんな所へ行ってみたいかを思い出しましょう。</p>		
<p>めあて 世界に一ぴきしかいないじぶんのそうぞうしたふしぎな虫をくふうしてかこう。</p>		
2 自分の想像した不思議な虫を友だちと交流したり動作化したりして具体的にイメージする。 (1) 自分の想像した不思議な虫を発表する。 (2) 虫の体や飛んでいる様子を動作化する。	☆ 自分の想像した不思議な虫を友だちに話したり友だちの想像した虫を聞いたりして表したいことを明確にする。 ☆ 不思議な虫の体や飛んでいる時の様子、羽音等を動作化することを通して想像を深めたりイメージを明確にしたりするようにする。	◎ 自分の想像した不思議な虫や乗っているなどしている自分の様子をイメージしている。 ◎ 虫になりきり不思議な虫の様子を体を動かしたりつぶやいたりしながら想像をふくらませている。
3 自分の表したい思いに合わせて不思議な虫を工夫してかく。 (1) 自由にフェルトペンでかく。 (2) 自分の想像した不思議な虫に近付くように何枚でもかく。	☆ 自分や友だちの表現の交流が自然に発生するように少人数のグループで活動するように机を合わせる。 ☆ 子どもが自分の思いに合うように工夫しているところを、面白さや楽しさに着目し賞賛する。 ☆ 思うように活動できていない子どもには発想ヒントカードで助言する。	◎ 自分で想像した不思議な虫を図工ノートや動作化を基に試行錯誤しながら自由に何枚でもスケッチをかいている。
4 本時の学習を振り返り、学習のまとめをする。 (1) 図工ノートを書く。 (2) 少人数で工夫したことを伝え合う。	☆ 学習のめあてにそって振り返りをさせるようにする。 ☆ 活動したことを全員が話せるように少人数で発表する。	△ 少人数で友だちの顔を見ながら自分の表したことを紹介し合っている。 ◎ 今日のめあてにそって自分の活動を振り返ることができている。

○造形活動の姿 ◎思考判断している姿 △学習の構え

第2学年〇組 図画工作科学習指導案(表現の活動)

指導者 〇〇 〇〇 2年〇組教室

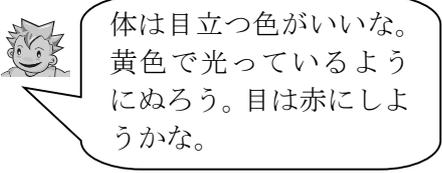
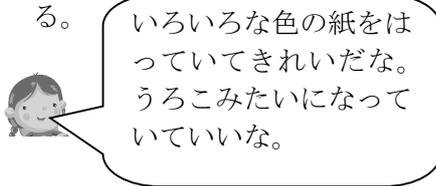
5 本時の目標 (3 / 8)

- 自分の表したいことが表せるように、ふしぎな虫と自分を、パスを使ったり紙類を貼ったりして、工夫して表すことができる。(創造的な技能)

6 本時学習のポイント

本時は、線描した自分だけの不思議な虫を色で表していきます。児童は、既習の表現方法を基にして、自分が表したいことに合っている表現方法を選び、表していきます。また、表現活動が活発になるように、少人数のグループで机を配置して、表現についての交流が自然に発生するようにします。

7 展開

学習活動	支援	子どもの姿
1 本時のめあてを確認する。		△ 今日の学習内容について興味をもっている。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて じぶんのふしぎな虫をくふうしてもっとおしゃれにしよう！ </div>		
2 図工ノートを見て、どのような虫を表したいのか確認する。	☆ 図工ノートの文章を読ませ、表したいことを明確にさせる。	◎ 文章と線描した虫を見比べながら、どのように表すのかを考えている。  体は目立つ色がいいな。黄色で光っているようにぬろう。目は赤にしようかな。
3 自分なりの工夫を考えながら色で表す。	☆ 基本的なパスの扱い方や技法、配色の資料を提示する。 ☆ 机間巡視をしながら工夫しているところを賞賛し、どのような表現をすればよいか迷っている子には図工ノートを基に個別に声かけをする。 ☆ 表現についての交流が自然に発生するように少人数のグループで机を配置する。	◎ 今まで学習した表現方法から、自分の表したいことに合った方法で彩色したり貼ったりしている。 ◎ 試し紙を使ってパスで色をつくったり、紙を並べたりしている。  いろいろな色の紙をはってきれいだな。うろこみたいになっていいな。
4 本時の活動を振り返り、次時の見通しを持つ。 ○ 図工ノートに工夫したことをまとめる。 ○ お互いに工夫したところを伝え合う。	☆ 活動のめあてにそって振り返りをさせるように声かけをする。	◎ 友だちが表現している様子を見たり、表現について話したりしている。 ◎ 今日のめあてに沿って自分の活動を振り返ることができている。

○造形活動の姿 ◎思考判断している姿 △学習の構え

第2学年〇組 図画工作科学習指導案(表現の活動)

指導者 〇〇 〇〇 2年〇組教室

5 本時の目標 (5 / 8)

- 自分の表したいことがはっきり分かるように、虫の位置や向きを考えたり、まわりの様子を線描したりすることができる。(発想や構想の能力)

6 本時学習のポイント

自分の表したい感じを表すために、教師の準備した画用紙と切りぬいた虫を黒板上で操作しながらみんな話し合います。さらに、自分の画用紙の上で、前時に表現し切り取った自分の虫の絵を試しながら操作することで、子どもたちは虫の向きや画面上の位置を考えていきます。

7 展開

学習活動	支援	子どもの姿
1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確認する。	☆ 前時の学習を図工ノートや資料で提示する。	△ 自分が想像した虫とどのような場所に旅をするのか図工ノートを見てふり返っている。
めあて ふしぎな虫にのって、ゆめのたびに出かけているようすをくふうしてかこう。		
2 切り抜いた虫の位置や向きを考える。 (1) 教師の準備した画用紙と切りぬいた虫を操作し、虫の位置や向きとまわりの様子を話し合う。 (2) 自分が表したい感じに近づくように虫を動かし、位置や向きを考えて表す。	☆ 黒板に画用紙と切りぬいた虫を準備し、画面操作ができるようにする。 ☆ 表現についての交流が自然に発生するように3人組のグループで机を配置する。	◎ 虫の位置や向きが変わることで、受ける感じも変わることに気付いている。 ◎ 自分が表したい感じを表すためには、どのような向きでどこに置くとよいか考えている。
3 まわりの様子を線描する。	☆ 表したいことによって、まわりの大きさや、形などをどのようにかいたらよいかを声かけをする。 ☆ 活動が進まない子どもに対しては、ゆびがきのやり方を説明する。 ☆ 思うように活動できていない子どもに対しては、図工ノートを見て自分が表したかったことをふり返らせる。 ☆ 児童の求めに応じ、いくつかの景色の写真を提示する。	◎  僕は虫を高く飛ばしたいけど・・・下に置くと高く飛んでいる感じがしないな。よし、斜めにして左上に置いてみよう。
4 活動をふり返り、次時の見通しを持つ。	☆ 学習のめあてにそってふり返りをさせるように、図工ノートの準備をしておく。	◎ 自分の行ってみたい世界を想像をふくらませながらかいている。 ◎ 今日めあてに沿って自分の活動をふり返ることができている。

○造形活動の姿 ◎思考判断している姿 △学習の構え

第2学年〇組 図画工作科学習指導案(鑑賞の活動)

指導者 〇〇 〇〇 2年〇組教室

5 本時の目標 (8/8)

- お互いに作品を見合い、自分なりに形や色、表し方の面白さに気付くことができる。

(鑑賞の能力)

6 本時学習のポイント

お互いの感じたことを話したり聞いたりして、いろいろな視点をもたせるために、2人組で活動します。児童は作品の面白いところを見付け、なぜそう思うのかを考えます。その活動を通して、作品の面白さをより味わわせていきます

7 展開

学習活動	支援	子どもの姿
1 自分の作品を振り返り、本時の学習の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 十分に表せていないところがあった場合は、かきたしてもよいことを伝える。 ☆ 本時で考えることは何かを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> △ 自分の表現を振り返り、表したかったことが表せているか確かめている。
めあて 友だちの作ひんのおもしろいところをたくさん見つけて、いっしょに楽しもう。		<p>虫のはねがおもしろい。大きくて、形がギザギザだ。すごいスピードで飛べそうだ。</p>
2 2人で作品を見合う。	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 自分なりの視点をもつことができるように、全体で一つの作品を鑑賞し、感想を出し合う。 ☆ 友だちの作品から自分が感じたことを友だちに話してから友だちの表したかったことを聞くことで、自分なりの感じ方が言えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 面白いと思う理由を考えている。
3 2人組で教室内の作品を見てまわり、感想をカードに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 机の上にイスを置き、イスの背に作品を立てかけることで、児童と作品の距離を近づけ、面白さをより味わえるようにする。 ☆ 机を班の形で配置することで、スムーズに見てまわれるようにする。 ☆ いろいろな視点で見られるようにするために、2人組でまわらせ、思ったことを自由に伝え合うことができるようにする。 	<p>いろいろなものを見られるように、スピードが速い虫に乗っているよ。すばやく動くために、体が細いんだよ。はねのことはよく考えていなかったけど、大きなはねにしてよかったな。</p>
4 活動を振り返り、分かったことや思ったことを小グループで発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 活動してわかったことを活発に交流させるために、少人数のグループで発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 2人で見合うことで、作品に対する見方が深まっている。 △ グループの中で、活動してわかったことを発表しあっている。 ◎ 多様な見方があることを知り、自分や友だちの表現の面白さに改めて気付いている。

○造形活動の姿 ◎思考判断している姿 △学習の構え